

講義名	19～教養特講（読書力）/15～読書力		
担当教員	藤原 喜美子		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

この講義の目的は、読書を通して本に慣れ親しみ、その本の要点を読み解く力を養うことにある。書籍からは様々な情報が私達に発信され、その一冊の本には著者の色々な思いが込められている。そこで、教科書や課題図書を超えて、そこに記された内容の中から時間ごとにテーマを選び、選んだテーマの内容を話し合いながら講義を進める。講義では、教科書や課題図書を音で読み、「読む力」を養う練習を行う。また、そこから読み取れた事柄や自分の感想を文題にまとめ、「書く力」を養う。さらに、受講生同士の会話の時間を作り、「話す力」や「聞く力」を養う練習を行うことがある。このようにしながら、「文章を読む」ということに対して読解力や向学心を育んでいきたい。

到達目標

学生が、教科書や課題図書等を読むことで本に慣れ親しみ、自分が興味のあるテーマを本の中から見つけ、興味を持った事柄について自分の感想や考えを述べるようになる。

提出課題

1. 講義では、毎回、小レポート（感想文や授業内容の確認）を提出してもらい、テーマは授業ごとに伝える。
2. 学期末には、レポート試験を実施する。学期末のレポート課題の詳細は、別途、12月前半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の授業に書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の授業などで、読書に関する考え方として紹介する。

評価の基準

毎回の講義における小レポート（感想文や授業内容の確認15回分、60点）、学期末のレポート試験（40点）を総合して評価する。評価基準は、第1回目の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

1. 【書費】第1回目の講義から、教科書を使用する。そのため、教科書は、教科書購入期間に、必ず購入しておくこと。
教科書は、岡藤孝『読み上手 書き上手』（ちくまプリマー新書076、筑摩書房）を使用する。
2. 教科書の他に、新聞記事、図書館に所蔵されている課題図書（文庫本または新書）を利用する。
第1回目の講義で、課題図書の書名を書いた用紙を配付する。また、各回の授業の時に次週の課題図書の書名を紹介する。
3. 事前に教科書を読み、予習を必ずしておくこと。教科書を読む時は、まず目次を見て、自分が興味のある項目から読んでもらいたい。
4. 本に慣れ親しみ、積極的に読書する習慣を身につけてもらいたい。
5. 前週コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正がある。授業の進め方は、後期の第1回目の授業で説明する。

教科書				
・『読み上手 書き上手』（ちくまプリマー新書076）	岡藤孝	筑摩書房	800円+税	ISBN978-4-480-68778-4

プリント資料及び参考文献

<プリント資料>
プリント資料は、必要に応じて配布する。
<参考文献>
参考文献は、講義中に適宜紹介する。

授業計画

1. 「読書力」とは
読書に慣れ親しむということ
2. 読書を考える
言葉を知る
3. 読書を書く
伝える力を養う
4. 読書を考える
記録と記憶の技術
5. 読書を考える
読む技術
6. 読書に親しむ
民俗学への招待(1)
7. 読書に親しむ
民俗学への招待(2)
8. 読書に親しむ
民俗学への招待(3)
9. 読書に親しむ
日本文化のルーツを探す(1)
10. 読書に親しむ
日本文化のルーツを探す(2)
11. 内容を理解する
地域の特長
12. 内容を理解する
日本の生業
13. 内容を理解する
人間社会と自然のバランス
14. 内容を理解する
日本の生活文化
15. まとめ
読書を習慣化することの意味

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、各自、教科書を読んでおく。また、大学の図書館に所蔵されている課題図書について、翌週までに興味のある項目を1つ選んで読む（約2時間）。
復習
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる小レポートや感想文を記入する。また、各自で、その日の講義の要点を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養特講科目は、生涯を通じて学ぶにあたっての基礎を築き、社会経済環境の変化に応じた教養を養う科目群である。この科目では、毎回の読書を通して本に慣れ親しみ、自分が興味のあるテーマを本の中から見つけ、興味を持った事柄について自分の考えを相手に伝える力を身につける。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義では、自らの前半は教科書を用いた講義の形式で進める。また、受講生の会話の時間を設ける。自らの後半は、その日の講義のテーマや登壇のテーマの内容について、各自でレポートを作成する。

実務経験の有無及び活用

課題図書の中には、日本の歴史や文化に関わる書籍が含まれている。特にそのようなテーマでは、民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務などの実務経験を活用し、日本の地域の特色などを紹介し、授業を行う。

備考

新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正がある。
対面を原則とする。この講義では、大学の図書館に所蔵されている書籍を利用したり、受講生同士が会話をする機会を設ける時間がある（オンデマンドの受講では、到達目標を達成することが難しい科目である）。
一冊の本には、著者の色々な思いが詰まっている。教科書や課題図書を読む時は、まず自分が興味のある事柄を探してもらいたい。また、教科書には、本を読む時のコツが多く記されているので、自分が実践しやすいものを探してもらいたい。